

皆様、こんにちは。

中央アジア 5 か国よりお越しの皆様、ようこそ日本へお越しくございました。本日の意見交換会の議長を務めます高畑洋平と申します。国際交流組織グローバルフォーラムの世話人事務局長、ならびに外交・国際問題シンクタンクである日本国際フォーラムで常務理事を務めております。本日は限られた時間ではございますが、率直で実りある議論となりますことを期待しております。

私自身、常々考えておりますのは、外交とは政府間交渉に限られるものではない、という点です。外交の本質とは、「他者と関係を築く力」であり、その積み重ねは市民一人ひとりの対話から始まります。文化交流はまさにその最も深い形態であり、誰もが平和を創る主体となり得るという包摂的な視座を内包しております。

日本は 2004 年に立ち上げた「中央アジア+日本」対話の枠組みの下、20 年以上にわたり多層的な協力を積み重ねてきました。そして昨年 12 月の初の首脳会合において、東京宣言は文化交流の拡大を明確に位置付けました。

本日の会合は、その首脳間合意を具体化する、いわば政策の実装段階にあたるものと位置づけております。

本日のテーマは「伝統文化の保存と産業展開・国際活動への活用」。
みなさまのご活動などを拝見しますと、いずれも「文化を守る」段階を超え、「文化を未来の資源へ転換する」段階に入っていることが明確に示されているように感じました。

ここで一点、私どもが近年研究してきた「狭間国家」という視点を想起したいと思います。大国の力が交錯する空間に位置する国々にとって、自国の文化的独自性をいかに戦略資源として活かすかは、単なる文化政策を超えた国家戦略そのものでもあります。

中央アジアの大きな可能性は、まさにこの点にあると感じております。本日、ご参加いただいております、日本側パネリストの宇山智彦メンバー、ダヴィド・ゴギナシュヴィリメンバーを含むその他多くのメンバーは、当法人内部に研究会を立ち上げ、3 年間「狭間国家」をテーマに研究を継続し、政治、安全保障、経済、社会など多様な側面から各地域の事例を比較検討してきました。その対象地域はユーラシア、アフリカ、南米、大洋州にまで広がり、世界各地の事例を横断しながら議論を積み重ねております。

こうしたなか、中央アジアはシルクロード以来の文明の交差点であり、日本もまた伝統と近代化を両立させてきた国です。両地域が共有しているのは、伝統を「遺産」ととどめず、「現在進行形の力」に変える知恵ではないでしょうか。

本日の議論が、具体的な協力構想、人材交流、共同展示や共同ブランド、さらには次世代育成プログラムへと発展する契機となることを心より期待しております。

また成功事例だけでなく、課題や困難も率直に共有できればとも考えております。

以上、簡単ではありますが、私の冒頭の挨拶とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。